サステナビリティ・マネジメント 〉〉〉

基本的な考え方

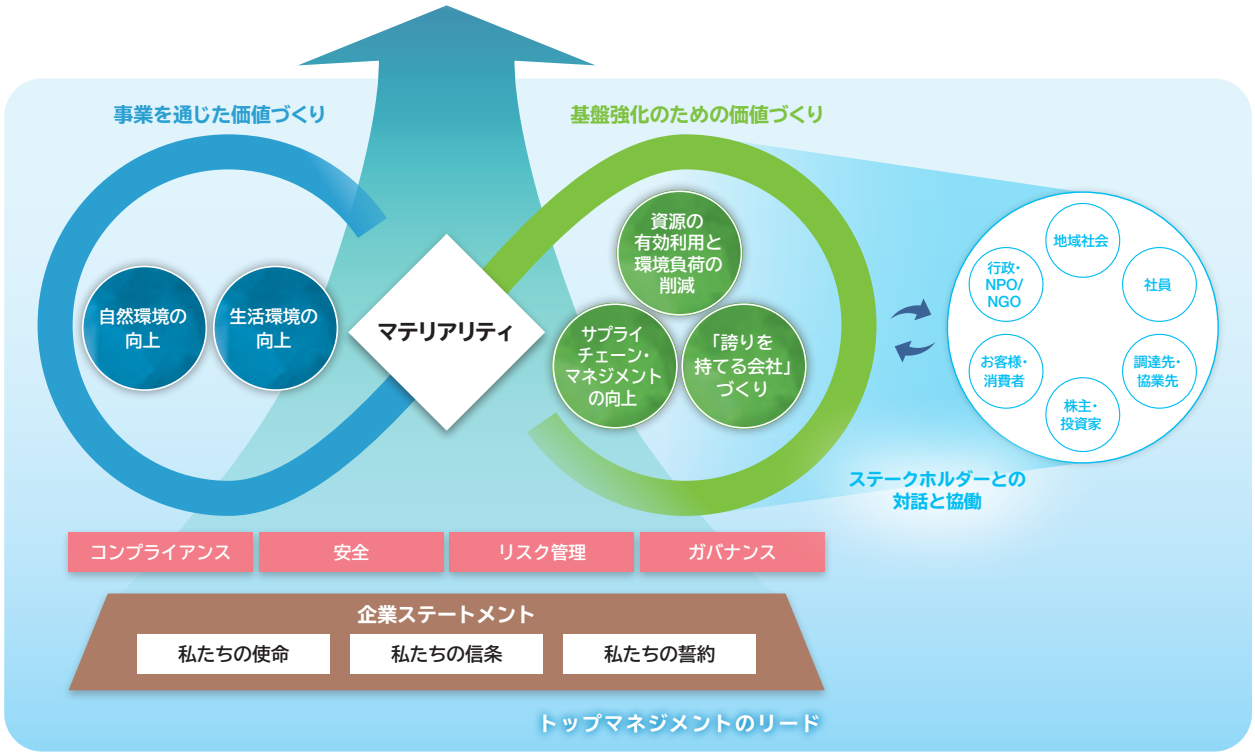
2020年はCOVID-19の世界的な拡大により、企業を取り巻く環境が激変しました。各国で経済活動が停滞し、サプライチェーンを含め、かつてない混乱が生じました。一方、昨今ますます重要性を増している気候変動への対応は、各国・地域の政府が目指すだけでなく、各企業の取り組み強化が求められています。このような環境下、気候変動対応や生物多様性の維持などの課題解決に重点的に資金を投じ、それをCOVID-19による景気低迷に対する刺激策に繋げるグリーンリカバリーが先進国を中心とした各国で実施され、それに伴い、企業にも多くの機会が存在すると考えます。また2015年に国連で採択されたSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）は、世界が抱えるさまざまな課題解決に対し企業にビジネスを通じた積極的な貢献を求め、企業はその期待に応える必要があります。

クラレグループは企業ステートメントに掲げる使命「世のため人のため、他人（ひと）のやれないことをやる」のもと、「コンプライアンス」「安全」「リスク管理」「ガバナンス」を基礎とし、マテリアリティに示される重要課題の解決に挑みます。

またクラレグループの企業活動は、お客様・消費者、株主・投資家の皆様、調達先・協業先、社員、そして地域社会や行政など、多くのステークホルダーとの関わりによって成り立っています。ステークホルダーとの対話と協働を一層深め、企業活動の充実を図ります。

これらのサステナビリティに係る諸活動をトップマネジメントが牽引し、長期成長と価値の創造を目指します。

〈〈 長期成長と価値の創造 〉〉



クラレグループのマテリアリティ

クラレグループは2019年に右ページのとおりマテリアリティを見直しました。2022年から始まる次期中期経営計画では、特定した5分野「自然環境の向上」「生活環境の向上」「資源の有効利用と環境負荷の削減」「サプライチェーン・マネジメントの向上」「「誇りを持てる会社」づくり」の目標を設定すべく検討を進めています。

サステナビリティ・マネジメントの詳細は下記に掲載しています。
https://www.kuraray.co.jp/csr/report2021/management

マテリアリティの具体例と対応するSDGs

マテリアリティに関しては下記に掲載しています。
https://www.kuraray.co.jp/csr/report2021/materialities

次期中期経営計画策定の取り組み

サステナビリティ・ワークショップ

クラレグループでは、2022年から始まる次期中期経営計画を策定するにあたり、組織横断的かつグローバルな視点で取り組むべき重要テーマとして「イノベーション」「サステナビリティ」「グローバルオペレーション(生産・技術)」「グローバル間接機能」の4テーマを選択し、グローバルメンバーで構成されるワークショップを立上げ、議論を進めています。その中でサステナビリティ・ワークショップは、日本・ドイツ・ベルギー・米国からの、事業部メンバーと間接スタッフの混成チームで、定期的なウェブ会議を実施しています。メンバーはそれぞれの国や地域の政策や規制、ならびに、市場動向および顧客ニーズなどの情報を共有し、長期的なトレンド予測をしながら、クラレグループが持続的に成長するため、グループが進むべき方向性や果たすべき役割り、取り組むべき課題等について活発な議論を交わし提案としてまとめています。ワークショップからの提案は、中期計画策定委員会での議論を経て、各組織の次期中期計画にその内容を反映し、着実な実施を目指します。

CSR調達

CSR調達方針

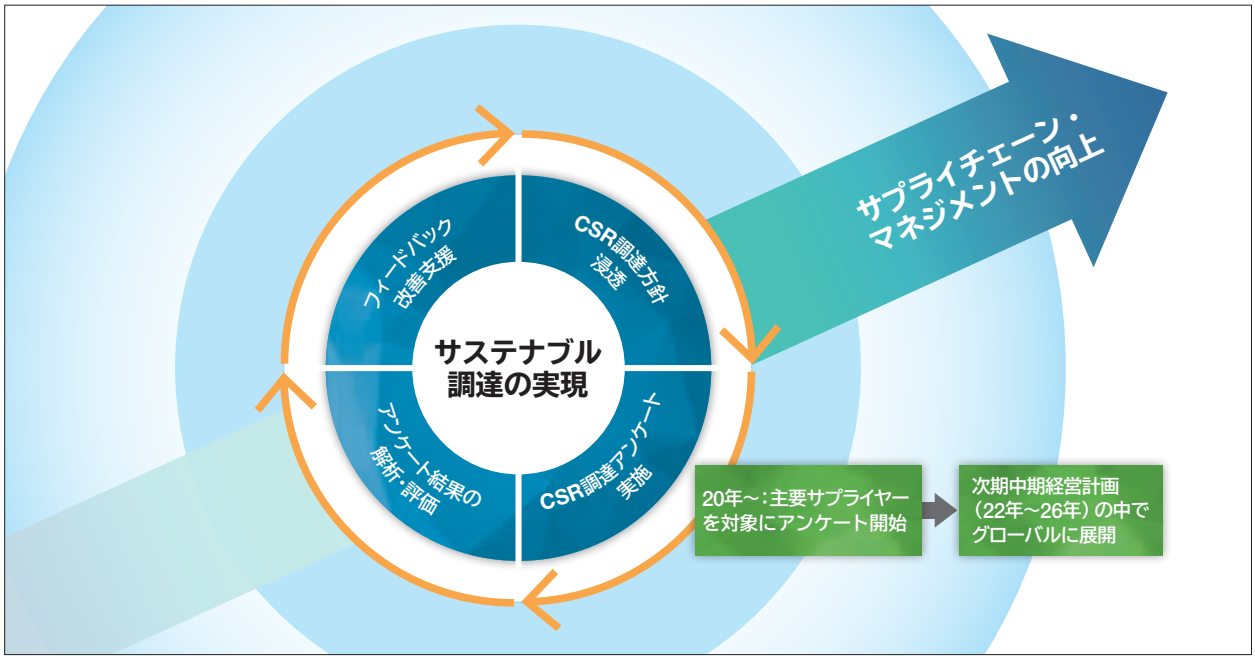
クラレグループは、多様な社会との接点において遵守すべき事項を【私たちの誓約】として、またこれを企業活動の中で具体的に実践するためのガイドラインを「行動規範」として定め、よき企業市民としての責任を全うすることを心がけています。その一環として、クラレグループでは2005年に「CSR調達方針」を策定し、取引先に当該方針の理解を求めてきました。しかしながら、近年のサプライチェーン・マネジメントに対する社会的要請の高まりを受け、従前の「CSR調達方針」では不十分な点が出てきたため、2019年に「CSR調達方針」を刷新しました。「CSR調達方針」に掲げる事項は、クラレグループが遵守・履行するのはもちろんのこと、取引先にも遵守をお願いしています。クラレグループは、取引先と協力し合い、共に取り組み社会的責任を果たしていくことを購買取引の基本としています。

CSR調達方針

1	コーポレート・ガバナンス	企業の社会的責任を自覚し、事業を通じて、人・社会・地球環境の調和を図り、よりよい関係の構築・維持に努めます。いつ、いかなる局面にあっても、法令や規則を遵守し、常に公正かつ誠実に企業活動を行います。
2	人権の尊重	事業活動に関わる全ての人の人権を擁護し、一人ひとりの尊厳と価値を尊重します。
3	安全で働きやすい職場環境	労働安全衛生関連法令を遵守し、事業活動に関わる全ての人にとって安全で働きやすい職場環境の維持向上に努めます。また、社員の多様性を尊重し、性別、国籍、人種などを理由とした差別をすることなく、公正に処遇します。
4	環境保全の推進	環境と調和した事業活動を通じて、環境負荷やリスクの低減および生態系を含む環境保全に努めます。社会の持続的な発展に貢献し、次世代への責任を果たしていきます。
5	公正な企業活動	公正・誠実に企業活動を行い、賄賂を含むあらゆる形態の不正に関与せず、市場での健全な競争を通じて、自由、公正、透明な取引を実施します。
6	商品・サービスの安全性と品質	安全で信頼でき、高い品質の商品・サービスの供給を通じて、社会に貢献することを目指します。
7	機密情報の適切な管理	トレードシークレット、ノウハウ、顧客情報等の機密情報は、会社の重要な資産であることを認識し、適切に使用・管理します。また、第三者により開示を受けた機密情報も尊重し、同様に管理します。
8	サプライチェーン	サプライチェーン全体を通じて社会的責任を果たすべく、取引先に対しても持続可能な調達の意義を周知し、その浸透に努めます。
9	社会貢献の推進	企業市民としての役割を自覚し、社会との積極的な交流や社会への貢献活動を行います。

CSR調達アンケート

サプライチェーンにおける「CSR調達方針」の遵守および履行を確実なものとするため、取引先での取り組み状況を確認します。具体的には、取引先への「CSR調達方針の浸透」→「CSR調達アンケート実施」→「アンケート結果の解析・評価」→「フィードバック、（必要に応じ）改善支援」のサイクルを構築し運用することで、定期的なモニタリングを行い、リスクを低減し、持続可能な調達の実現を目指します。また、この活動の中で、特に積極的な改善支援が必要と判断した取引先に対しては、コミュニケーションを取りながら教育・改善指導を行います。さらに、取引先における活動や改善状況をもとに、取引先への監査の必要性等を見極める予定です。



この取り組みの第一歩として、国内クラレグループ※における主要取引先を対象に、クラレグループの「行動規範」および国連グローバル・コンパクトの10原則に基づいたアンケートを実施しました。

今後は、取引先に対するフィードバックや改善支援を通じて、取引先と協同しながらPDCAサイクルの確立・定着を図ります。

さらに2022年から始まる次期中期経営計画において、海外も含めたクラレグループ全体の取引先に対して調査を拡大し、グループ全体でのサプライチェーン・マネジメントの向上を目指します。

※国内クラレグループとは、株式会社クラレおよび国内関連企業のうち、「製造業」の6社を指します。

株式会社クラレおよび国内関連企業は下記に掲載しています。
https://www.kuraray.co.jp/company/base/domestic

「国連グローバル・コンパクト」（UNGC）への賛同

クラレグループは2020年12月に「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。UNGCに署名し企業姿勢を明確に表明することで、サステナビリティ・マネジメントを一層推進し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

イニシアティブ等に関しては下記に掲載しています。
https://www.kuraray.co.jp/csr/report2021/initiative

品質マネジメント

クラレグループのこだわる品質は、クラレグループの使命である「世のため人のため、他人（ひと）のやれないことをやる」の実現に根差しています。私たちが提供する商品・サービスは、お客様にその価値を評価され、受容されてはじめて世の中の役に立つことができる、すなわち顧客満足こそがクラレの考える品質です。顧客満足を実現し、社会に貢献する製品やサービスを提供するためには、製品やサービスの性能・品質の追求だけでなく、安全・環境影響・サステナブルなど、複数の観点での配慮が重要であると考えています。このような点から、生産・開発といったモノづくりだけでなく、販売・物流・保管・バリューチェーン等を含め、総合的に品質マネジメントを行うことが必要であり、「全員参加」による取り組みを進めています。

クラレグループグローバル品質方針

安全で信頼でき、
高い品質の商品・サービスの提供を通じて、
社会に貢献することを目指します。

私たちは、サステナブルな社会の実現のために、安全で質が高い商品・サービスを責任と誇りをもって提供し、自然環境・生活環境の向上に寄与することを約束します。
そのために、一人ひとりが法令・社会の要請やお客様の要望を理解し、お客様にとっての価値の創造を追求して顧客満足を高められるよう、継続的に改善活動を行います。

製品安全・化学品物質管理

製品の安全を確実なものとするため、クラレグループの各事業部は、新製品の開発や変更管理を行う際にリスクアセスメント手法を用いた評価と改善を実施し、製品安全の確保および保証を行っています。

加えてナノマテリアルを使用するもの、体内へ摂取されるものなど、特に安全性の検証を要する製品に対しては、CSR本部を中心とした審議委員会を組織し、その安全性を確認しています。

化学物質管理においては、社内データベースに登録した原材料や製品等の含有化学物質情報と、法令・化学物質の安全性情報等の外部データベースを連携させることにより、関連する法規情報や危険有害性情報の取得、SDS（安全データシート）等の作成ができる仕組みを整備しています。また、事業部単位で化学物質管理の責任者、実務担当者を指名し、責任者・担当者を起点に社内教育を継続的に実施し、化学物質管理や法令に対する理解を深めています。さらに、仕向け先の拡大・クラレグループの拠点拡大・各国での法規制の複雑化に対応するため、海外のグループ会社と連携して各国の法令や規制動向を調査し、共有することで、クラレグループ全体での的確な化学物質管理を目指しています。

このような活動により、お客様への、安全で信頼性の高い製品・サービスの提供に努めます。